

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 2年 2月 8日
(87号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 学塾・中之島事務局

人間学塾
第89講

「死而後已(してのちやむ)」
本南一志先生



■『続・凡事徹底』より

「せっかく私たちの祖先、大先輩にはすごい方々が存在したのに、それを全部捨て去って、

そして自分だけの考え方、しかもまだだけの考え方、将来、私たちの子孫が何億年も生きていくことを考えないで、自分の世代だけのことを考えていたんでは、先祖に対して申し訳ないし、後世の人たちに對して申し訳ない。」

人間学塾で学ぶ方は、このことを広げていただきたい。ご縁ある方に、日本の国の素晴らしさを語っていただくことが、少しずつこの国を照らすきっかけになるのではないかと思っています。

「私は草取りをする時、草の根元を持った瞬間に、どのくらい力を入れ、どう引っ張ったらうまく根が抜けるか」ということを一回一回しっかり意識しながらやっています。く略くけれども私はどうすれば綺麗に抜けるか、一回一回一工程一工程に意義と価値を感じながらやっているのです。」

私も掃除を始めた当初は、ここまで考える必要はあるのかと思っていました。しかし二十年経つてようやくそれが解るようになりました。一回一回大事に仕事をする、仕事は一回で終わる。掃除の実践はそういったことを教えてくれました。

「上に向かって歩いていくことは大事なことであり、まずけれども、時には下へ下りていくという考え方・生き方も大事だと思っています。」

世の中、上に向かって生きている人ばかりの時代の中で、下に向かうというのは嘲笑的になったりもします。また無視されたり、冷たい目で見られる

という体験もたくさんしてまいりました。けれども、これも今日「やってきてよかった」と思えるようになり、その積み重ねが、少しずつ自分の人生の根を伸ばすきっかけになるのではと思っています。

■的中とは

「死而後已」とは曾子の言葉です。

曾子曰、士不可以不弘毅。任重而道远。仁以為己任。不亦重乎。死而後已。不亦遠乎。(泰伯第八)

この意味は、士は度量が広く意志が強固でなくてはならない。それは任務が重く道が遠いからである。思いやりの心を実践するというのはなんと重いことか。全力を尽くし死ぬまでことに当たれ。なんと遠いではないか。

私は弓道をやっていますが、的中とは的に中(あた)ることです。的をズバツと突き抜ける中となる。弓道では心と身体を一致できたときに、必ず的中するのです。掃除も同じで、やった人には必ず解る。理論だけではあたって中になるのについていないということになるのではないのでしょうか。

中村天風の勉強会で、中空にある青竹を木刀で斬るということをししました。「これは斬れないだろう」と思って挑む人の青竹は斬れずに折れるだけです。「人生は心一つの置き所」と天風先生は表現されましたが、自分の思いが必ず実現するのです。

その後鍵山掃除道の実践に出合い、天風先生の精神統一も弓道も全て同じであることに気づきました。凡事徹底の極意は、そのものの持てる力を充分に引き出す自分自身になっていくということです。時間・経験・工夫その自分の体験から編み出してき



た気づきが、自分自身を変えてゆく。そういった一つ一つがきちんとおさまったときに物事は成就する。必ずやれるときはやって来るが、それを信じられるかどうかは自分自身にあります。四六時中自分が徹底できる思いが「的中」を生むのだと思います。

■人生を取りこぼさないために

中央教育審議会の答申で、働き方改革により学校の先生は掃除をしなくてよいことになりました。掃除の会がこれまで子どもたちの未来のために、全国各地で学校のトイレをお借りして先生方と掃除に取り組んできましたが、そんな熱い思いを根こそぎひっくり返されるような感じがしました。この働き方改革は単純に時間の問題に過ぎない。しかし大事なことは質です。

私は十六年まえスキルス胃癌を体験し、折に触れ自分の生きている意味、役割を思うようになりました。与えられた苦難はマイナスではないと思います。真正面から受けて立ったときに、初めて自分の役割が見えてくるのではないかと。

勉強会に参加したり、掃除に取り組んでいても、自分を深めているかどうかが大切です。徹底して深めてゆくことが新しい自分を生み出してゆくのではないかと。自分の心がきれい、曇りを磨くように光らしているか、ということを経験は自分に問いかけてきます。

一回しかない人生を取りこぼさないために、何を目標してゆくか。先ずは先生・師となる人となるが、それは全てではない。その向こうに志があること。そして安岡正篤先生は「立派になる人間は良く沈潜する」と言われましたが、それは人間の根をしっかりと伸ばすということです。

(抄録 中川千都子)

《グループ討議（感動語録）》

□ 講師 木南一志先生

死而後已（ししてのちやむ）」

【Aグループ】

① 的に中てる Ⅱ 突き抜ける

② 志 ↑ 師 ↑ 自分

③ 初一念（初めに心に決めた覚悟。最初の決心。初志。）

【Bグループ】

① 心と体を一致させること

② 初一念

③ 声なき声を感じる

【Cグループ】

① 的に突き抜ける

② 初一念

③ 心をキレイにする四つの言葉

【Dグループ】

① 立派な人は根を下に伸ばす

② 自分が人にしてもらって良かったことは人にする。

③ 敬は百邪に勝つ

【Eグループ】

① 思いがあれば物事が叶う

② 人間の価値 Ⅱ 天職に熱心度・

きれいな心度

③ 敬は百邪に勝つ

【Fグループ】

① 的に中 Ⅱ 心と体を一致

② 心をキレイに Ⅱ 人間の価値

③ 初一念（何の為に…を繰り返し続けて続ける）



《読書会》（Aグループ）

□ テキスト 森 信三先生『一語一会（1月）』

□ 指導 西村俊幸世話人

□ 進行 北嶋紀子塾生

一月七日

大よそわが身に降りかかる事柄は、すべてこれ天の命として慎んでお受けするということが、われわれにとっては最善の人生態度だと思います。

一月九日

平素自分がうけている恩恵については、その程度の深いものほど、かえって容易に気が付きたいのは常であります。

一月十日

単に教科書の内容を教えるだけでも、実に容易ならざる準備と研究とを要するわけですが、さらに、さらに教育の眼目である相手の魂に火をつけて一人の人間の魂を目覚めさすということは、実に至難中の至難事です。

一月十七日

「念々死を覚悟してはじめて真の生となる」という一語は、結局、わたくしの宗教観にギリギリ決着のところの一表現と申しても良いでしょう。

一月二十二日

五分の時間を生かせぬ程度の人間に、大したことではできぬと考えてよい。

一月二十五日

幸福とは求めるものでなくて、与えられるもの。自己の為すべきことをした人に対し、天からこの世において与えられるものである。

《読書会》（Bグループ）

□ テキスト「国民の三大義務」

□ 指導 細川三郎顧問

□ 進行 大西由香塾生

・ 貧困による教育格差を知る必要がある。

・ イスラエル国民の自国愛の深さを日本国民の意識の低さにギャップを感じる。

・ 世の中を知り、自分のマニフェスト作りを今年の目標にしたい。

・ 日本人には就農の義務を課してもいいのではないか。日本の歴史を伝える為に寺子屋活動をしている。

・ 幼い時からしっかりと教育を施すことが大事。しっかりと働き、しっかりと納税する姿を示したい。

・ 不登校児に伝える親のメッセージ。

・ （何のためにという目的観を親が持つべき。）四季の移り変わりから学ぶ日本人の価値感を家族で話し合い手を取り合って伝えていきたい。

・ 無駄なものがあることが世の中を歪めている（身の回りの整理・整頓が重要）

・ 家庭が国家を創る基本単位。

・ 国を変えるのは子どもたち、家庭から子どもを変えよう。

・ 道徳、愛国心、宗教観を日本に取り戻さないといけない。



第9期推薦講師アンケート集計

◇ 初期推薦講師

島内秀晃氏(前関学アメフト部監督)

西亀 誠氏(盲目の弁護士。「幸せの入口屋」初代当主)

松本明慶氏(大仏師。第一期宿泊研修OP企画工房見学)

鈴木中人氏(いのちの授業)

中村文昭氏(黒船カンパニー代表取締役、ご縁の力を探求)

朝井まかて氏(小説家。『恋歌』)

小西忠禮氏(ホテルリッツ元料理人。現幼児教育に邁進)

向野幾代氏(特別支援教育の草分け、障害児教育)

桜庭露樹氏(開運のために80%のものを捨てる。断捨離)

天明 茂氏(人間学大学学長、公認会計士)

山口 周氏(日本の独立研究者、著作家)

吉岡秀人氏(特定非営利活動法人ジャパンハート最高顧問)

本山慎一氏

杉 良太郎氏(俳優・ボランティア活動)

康 光枝氏(日本の風土や習慣を活かす自身の氣を湧かせる)

枡野俊明氏(禅僧)

山折哲男氏(日本の宗教学者、評論家。専攻は宗教史・思想史)

◇ 再登壇推薦講師

鈴木秀子氏(7期。8期依頼するが体調すぐれず残念)

矢作直樹氏(6期)

白駒妃登美氏(3・5期)

岩田洋治氏(6期)

水谷もりひと氏(3期)

大島修治氏(天分塾にて登壇・人間逃げたらあかん)

今野華都子氏(4期)

中東 弘氏(5期)

寺岡 賢氏(3・8期)

◇ 専任講師

木南一志氏

上甲 晃氏

横田南嶺氏

みなさま方のご推薦、ありがとうございます。早急に世話人會にて登壇依頼講師の選任を進めてまいります。推薦頂きました塾生の方々には、依頼等折衝のご協力を宜しくお願い致します。

新年の集い



《淀川掃除に学ぶ会》 短信 志村隆夫

二月二日の日曜日晴天に恵まれて、今年2回目の掃除に取り組みました。参加者は約25名集めたゴミ袋は17個でした。いま、掃除をしている場所は比較的綺麗なもので、ゴミのもっと多い所に変更する予定です。

いつものように生駒市から来ておられる松山さん、生島さんが温かい飲み物とパンを提供して下さいました。また、よしや様からは水・お茶のペットボトルを頂きました。よしや様の神吉会長様がこのところ体調が優れず、参加されない月が多くなりました。その為、よしや様は来月でこの会を退会されることになりました。長年にわたり参加して頂きいつもお茶やお水を頂きました。また、毎回沢山のお菓子を頂きこの会を盛り上げて頂きました。

本当にいろいろ有難う御座いました。

この紙面をお借りして御礼申し上げます。



《人間学塾・中之島》

■平成2年3月カリキュラム

＊日時 3月14日～15日(第2土・日曜)

午後1時～翌日午後12時

＊場所 関西セミナーハウス(修学院きらら山荘)
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23

＊講師 石平氏
「日本人が知らない中国四千年の歴史」



1962年中国四川省に生まれる。北京大学哲学部を卒業。1988年に来日。神戸大学文化科学研究科博士課程修了後、民間研究所勤務。2003年に『なぜ中国人は日本人を憎むのか』(PHP研究所)を著して中国における反日感情の高まりについて警告を発して以来、評論活動に入る。現在は拓殖大学客員教授。中国問題・日中問題を中心に執筆・講演・テレビ出演などの言論活動を展開。産経新聞本紙にて「石平のChina Watch」隔週コラム連載中。著書多数。

福島香織氏

「孔子を捨てた国・中国」



奈良市生まれ。(ジャーナリスト・中国ウォッチャー・文筆家)大阪大学文学部卒業、産経新聞入社。上海復旦大学に業務留学後、香港支局長、中国総局(北京)駐在記者、政治部記者などを経て2006年に退社。以降はフリーとして、おもに中国の政治経済社会をテーマに取材。主な著書に『中国絶望工場の若者たち』(PHP研究所)他著書多数

＊オプショナル企画

《基本カリキュラム終了後》

日本のヘレンケラー



無手の尼僧 大石順教尼「可笑庵」を訪ねて

《芳信抄》

鍵山秀三郎先生(東京都目黒区)

上甲晃様の「国家百年の計」は、日本の政治・行政に携わる人たちへの警鐘です。また、国民への自覚を促す明確な教えと思います。一日一日では何も変わらないように見えても十年たつと大きく変わります。百年後にいかにあるべきか考えねばならないと教えられました。

山下武彦様(埼玉県児玉郡)

上甲先生のご講演の内容に合わせたように寺田先生の寄稿録「鎮國の山」が重なって心に深くしみいるものがありました。自身七十四歳となり、歳をとることの意味がいくぶんわかつてきたように思います。戦争を経て生かされている私たちが、更に百年後の日本への視点を若者たちに伝えていかないと、明日の日本は消滅してしまうのではないかとさえ心配されます。人気だけの政治家や世論だけの政策に偏らないよう気を引きしめる必要がありますね。人間学塾・中之島がその柱になってくれることを念じております。

加藤秀夫様(宮城県名取市)

上甲先生のご講録に感謝です。志の三条件と、経営の卓見、経営とは三つの条件を将来の指針(理想)、実現の段取り(実現)、実行(現実)を上げておられることはしっかりと心に刻みたいですね。

大出雅一様(埼玉県川越市)

「国家百年の計は」正に森信三先生の「一眼は遠く歴史の彼方を……」に匹敵します。私は昨年上甲晃先生の情熱に直接触れる機会を得ました。鍵山秀三郎先生も体調不良の状態を押して、会場の入口まで来られたと聞きました。「日本の政治には経営がない」しかしその危機を感じている国民も殆どいない。この上甲先生の言葉を重く受け止めます。

桂誠司様(愛媛県四国中央市)

上甲晃先生にお会いしたのは三十年前になります。「志」とななんぞや」を教えて頂きました。志の三つの条件、僕は言行一致が甘いです。いつも分かり易く教えて頂きます。

坂部智一様(愛知県豊田市)

中之島ニュースの通算号数で歴史を感じ、一步一步の力を教えて頂いております。人生の生きて足跡は、ご縁ある方々に、ふとした時に、いつまで思い出して頂けるかどうか。森信三先生は、身体がなくても精神・魂・心がいつまでも国土に残っているかと、『修身教授録』で仰っているといます。宮本様の「中之島ニュース」二十年後は軽く思い出して頂け、私は三十年後も思い出すと思います。

稲垣孝志様(愛知県春日井市)

日本の政治には経営がないと松下幸之助翁。ああ、私の生活に経営があるのか？理想も現実方法もひたむきな実践もないではないか!!我欲でなく、まわりの人を笑顔にする「理想目標」でないこと。

柴田久美子様(岡山市北区)

上甲先生の講話録に感動しました。8年間ただひたすらに「最期すべての人が愛されていると感じて旅立てる社会を創る」ことに尽くしてまいりました。夢をもっと広く実行に移す年にしていきます。深い感謝を込めて。

《お願い!!》拙速主義(期限を守るには……)

◇読書感想文刊行のお知らせ

原稿はお出しくださいましたでしょうか。本日が締切日となっております。

※まだ提出くださっておられないお方は、早急に提出をお願い申し上げます。

《最終締切日、2月17日(月曜)です。》